

## 卒業を迎えて

准看護学科第 61 期生 小貝 珠樹

私が看護師を志した理由は、手術室で患者だけでなく医師からも信頼を置かれている看護師長に憧れ、自分も信頼されるような看護師になりたいと思い入学を決意しました。

入学し、初めて配布された教科書の多さに圧倒されました。教科書を開いてみると難しい単語が並び、覚えられるのか、また授業についていけるのか不安でした。実際に授業が始まると、見たことのない専門用語が多く、難しい漢字を目にするたびに、理解に苦しみました。

しかし、授業以外にナーシングチャンネルの動画やわかりやすい授業資料を照らし合わせて学んでいくと、徐々に授業内容も理解でき、次第に興味が深まり、学ぶことが楽しくなってきました。

1科目が終わる毎に試験があり、新たな授業も始まるため、焦りと緊張感が続きました。しかし、わからないことをクラスメイトと教え合い、時間を決めて勉強したり、時には息抜きを行い、落ち着いて試験に臨むことができました。

戴帽式を迎えた時、新たな一步を踏み出せたことの喜びと同時に、看護師を志す者として、患者様の痛み、苦しみを共感し、常に患者様の幸せを願うことを誓いました。

実習では、患者様を受け持ち、コミュニケーションの難しさや知識不足を痛感しました。しかし、指導者や先生からの助言を元にクラスメイトと意見交換し、助け合いながら同じ目標に向かって励むことで、実習を乗り越えることができましたと思います。コロナ禍で限られた時間でしたが、臨地での関わりの中で、「看護は観察から始まり、観察で終わる。」というように、患者様を知らなければ良い看護に繋がりません。相手を知ることで、考えや望みを理解し寄り添った看護が提供できることを学びました。



改めて2年間を振り返ると、あっという間に感じます。しかし、ここまで成長できたのは自分一人の力ではなく、支えてくれた家族や共に学んだクラスメイト、常に学生に寄り添い愛を持った指導で導いてくれた先生方の存在があったからこそだと思います。

今後、准看護師として、根柢を持ち展開する看護の大切さを忘れず、誰からも信頼されるよう笑顔と思いやりを胸に今後も日々努力していきたいと思っています。